環境・農村開発・女性自立

受益者になるのも一苦労？キナマンガン村

キナマンガン村における植林事業は10～15名のマノボ民族が受益者に選抜される予定ですが、まだ最終選考が終わっていません。「抵当に入っていない1ヘクタールの土地を用意すること」という加入条件に向けて、他人の畑で日雇い労働に精を出したり、野菜を作って国道沿いで販売したり。様々な努力を払っています。そんな中、育苗場の建設が始まりました。その土地のオーナーやシティオリーダーのアーネストさん（一番左）ほか数名は、受益者になることが確定なので、土地を耕すためのシャベルを配布しました。

日本製のシャベルを配布され、ご満悦の受益者

フィリピン製や中国製のものは壊れやすく、長く使用できない

特に写真右端の男性は、10年前に植えたパラゴムノキ12本から週1回樹液を採取し、現在月1200ペソの収益を上げています。天然ゴムの価格は年々上昇し続けていることもあり、住民はその将来性を確信し、期待が高まっています。問題は悪天候と苗木不足です。種苗会社へ注文はしたものの、まだ搬入できていません。**「1番目は我々の生活の向上、2番目は子どもたちの未来」**とおっしゃるアーネストさんとご家族、住民のために、すみやかな遂行が望まれます。（三井物産環境基金助成・3年間）

今年度は4地域61ヘクタールに植林！

上記のキナマンガン村、ラワン村30ヘクタールの他に、下記の3つの事業を計画しています。

＜レイクセブ町ティバウ島　15ヘクタール＞

島の生態系を守り収入向上を図る本事業は、住民、町担当者及びPFPにより、計画細部の打合せが始まりました。保護区に在来種6,250本、住民の土地に果樹等2,900本、境界地に竹150本をそれぞれ植栽する事業です。（イオン環境財団助成事業）

＜ラマダル村とバンカル村　10ヘクタール＞

68号4ページで報告のタラヒクバランガイ2地区での継続事業です。1年目受益者25世帯をモデル及び指導者として、最小限の予算で実績を上げ、今後のよい事例となると期待しています。HANDS自己資金で実施です。

＜スプ村とフィタック村のモデル農場　6ヘクタール＞

「数字で成果を示すこと」。助成を受けての事業では、具体的成果報告は当然の義務ですが、今回改めて助成の条件に付記されました。

数年後の天然ゴムやコーヒーからの収入、土壌保全効果は、他地域での実績から保証できます。しかし、1年の事業期間内に高原野菜栽培で確実に収益を出し、安易にプランテーション企業に土地を貸してしまう住民の翻意を促すという本事業の目標達成は簡単ではありません。対象は過去に水道を建設したフィタク及びスプ村のモデル農家6戸と研修や整地作業に参加する地域住民20人で、すでに1回目の住民説明会を終えました。（日本国際協力公益財団助成）

COWHED組合員への縫製指導

組合員の一人リジャに、ファスナーがついた小物入れ3種を指導した。1個完成するごとに喜び、皆に見せて回っていた。それを見た役員までもが、「私も習いたい」と言い出した。何かを作って、いくらかでも収入を得たいという実態がありありと見て取れた。

ティナラクのベテラン織り手エナスまで、習いたいと言い出し、驚いた。話を聞くと、刺繍も手縫いもできると言うので、縫ってもらうと、上手だった。ミシンでなくても、手縫いで十分と、売り物の刺繍布にファスナーを付け、両端を縫って小物入れにした。エスナに刺繍する時気をつけることとして、ショーウインドウにあった刺繍布の売り物を例に、模様を左右対称になるようにと要望した。エナスは「大事な指摘だ」と、自発的に刺繍をする他の組合員に説明してくれた。

具体的に私達の要望を伝えていくことが重要だと感じた。

（相田）